

## 食物アレルギー 対処を学ぶ 愛教大で付属学校の教諭ら



人形を使って「エピペン」を打つ手順を実演して見せる岡本准教授（手前左）ら  
〓刈谷市の愛知教育大で

太ももに注射するまでを実践。エピペンの側面のみをグーの形で握ることや、体に当ててから押し込む打ち方を確認した。

学校の給食後などに食物アレルギー症状が出た子どもへの対処を学ぶ研修会が、刈谷市の愛知教育大であった。愛教大付属の学校、幼稚園の養護教諭と栄養教諭が自己注射薬の使い方などを確認した。

原因食品を誤って食べてアレルギー反応が起きると、複数の重篤な症状が一度に現れる「アナフィラキシー」によって命に関わることもある。学校現場では

症状を緩和するアドレナリン液の自己注射薬「エピペン」を打って対応している。緊急時に備えようと大学が研修を企画し刈谷、岡崎、名古屋三市内の七校・園から十五人が参加した。藤田医科大地域連携教育推進センター（豊明市）の石原慎センター長（左）と愛教大養護教育講座の岡本陽准教授（右）〓免疫学〓を講師に、助けを呼んで一九番通報を要請するなどしてから、実際に針が出るシミュレーターを使って人形の

（神谷慶）